

初任者から管理職
まで必見！

学校再開後の「学級活動」を基盤とした「学級づくり」のポイント

川崎市立小学校特別活動研究会

学校教育ならではの学びを大切に

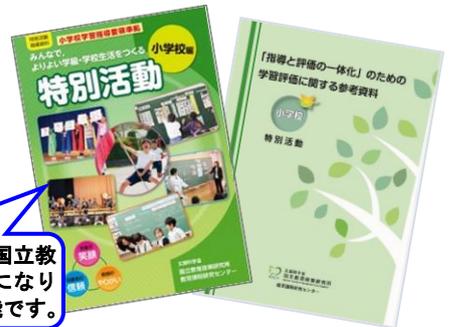
文部科学省初等中等教育局から出された「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』の方向性等について（通知）」には、次のように示されています。

「学校行事等も含めた学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進めていくことが大切である」

「学校の授業において行う学習活動を、教師と児童生徒の関わり合いや児童生徒同士の関わり合いが特に重要な学習への動機付けや協働学習、学校でしか実施できない実習等に重点化する。」

このことから、一部報道等にあるような「教科の遅れをどう取り戻すのか」といった話題で出される「技能教科等を無くして、4教科だけやればよい」などの論調は、文部科学省が示している内容と異なるものであると考えられます。

また、川崎市総合教育センターから5月25日に出された「年間指導計画一覧（例）」では、全教科等を同様に26週と仮定し再編成されています。学級活動においても、「26回（1年生は25回）」が例示されています。



指導と評価にあたっては、国立教育政策研究所の資料が参考になります。HPでダウンロード可能です。

「学級活動」を学級経営の基盤に！

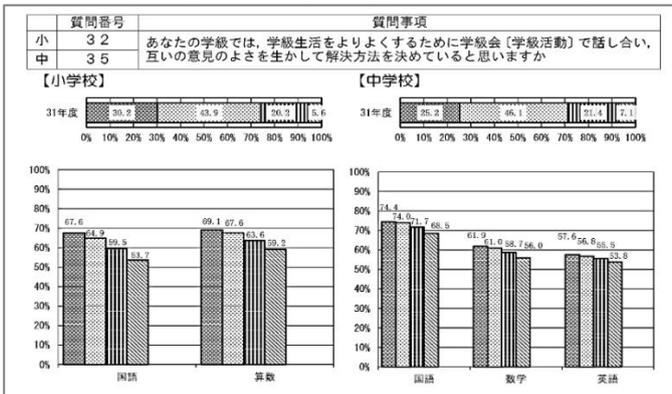
3か月近く、休業等によって学校から離れた子どもたちが、6月1日からの「分散登校」を経て、6月15日には、「学校の新しい生活様式」に基づいたうえで、学級の全員が教室に集まって学習を進めていきます。

その際、一人一人の子どもに目を配った「児童理解」の視点とともに、学級集団としての「学級づくり」の視点をもって、さまざまな教育活動にあたる必要があります。そして、教科指導の視点からも、「学びに向かう集団づくり」を進めていく必要があります。

このような、学級経営の基盤となるのが「学級活動」です。

「学級会」と「学力」の関係

平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書【質問紙調査】 令和元年7月 文部科学省 国立教育政策研究所



左の資料は、平成31年度全国学力・学習状況調査の質問紙と、児童生徒の正答率をクロス集計したグラフです。「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と肯定的にとらえている児童生徒の方が、平均正答率が高いという結果が出ています。学級活動が、「学力向上」にも寄与していることが分かります。

「学びの保障」のためにも、「学級活動」を基盤として、「学校の新しい生活様式」に配慮しつつ、子どもたちが自分たちで自分たちのよりよい学級生活をつくっていくことが大切です！

子どもたち一人一人の思いを生かした「学級目標」づくり

自分たちの学級は、
自分たちでつくる！！

6月15日から、学級の全員が登校してくる予定です。つまり、この段階から、いわゆる「黄金の3日間」にあたるかと考えて取り組みたいものです。その前の「分散登校」のうちに、そのための下地づくりができます。

①子どもたちの思いを集める

たとえば、右の資料は昨年度のものですが、始業式の日配って、翌日をもってきてもらい、それをもとに、「どんな1年間にしていきたいか」「どんな学級をみんなで作っていききたいか」を話し合いました。すでに「休業期間中」にこうしたワークシートを家庭学習の一環で取り組んでいる学校もあると思います。今からでも「分散登校」の期間に、子どもたちに書いてもらうことはできます。

よい学校生活を送るために！！
平成31年4月5日

組 番 名前

1. どんなクラスにしていきたいですか？くわしく書いて下さい。理由も書けるといいですね。

明るくてえがおがあふれるクラスにしたいです。理由はクラスがほほやかになると思ったからです。

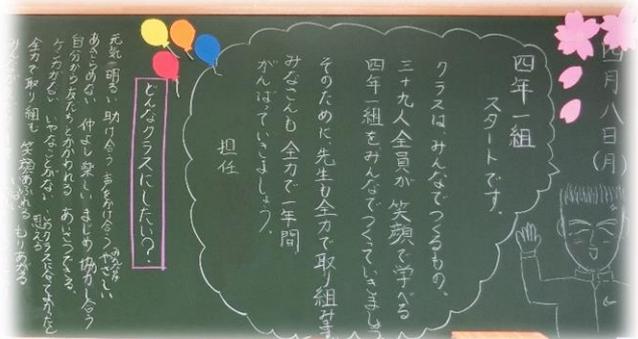
2. 1で書いたようなクラスにするために、あなたはどんなことをしたり、気をつけたりしたいですか？

思いやりを大切にしていぎょうにも集中したいです。友だちをたくさん作って、友だちにやさしくしたいです。

②子どもたちが思いを語り合う

上記アンケートをもとに、6月15日以降に話し合います。そこから、共通事項などを整理していくと、「どんな学級にしていきたいか」のイメージが見えてきます。

小学校段階では「学級目標」を子どもたちの意見だけで決めるのは、望ましくないとされています。学級目標には、学校経営目標を受けた学級経営目標や保護者の思いなどが反映される必要があります。「子どもたちの自治的活動の範囲を超える」と考えられるからです。また、最終的には、「言葉遊び」になってしまい、「どの言葉をどう使うか」を短い時間内に合意形成するのは難しいためと考えられます。しかし、教師が一方的に決めてよいものではありません。子どもたちが、「こういうクラスにしていきたい」という思いを十分に語り合い、「自分たちで決めた」という思いがもてるよう適切に指導する必要があります。



③学級目標の掲示を工夫する

教室の見やすいところに、掲示の仕方を工夫して「自分たちの目標」を常に意識できるように配慮することが大切です。「みんなで決めた目標を、みんなで目指して実践していく」といった支持的な風土が、学級に安心感を生み、自分の居場所となり、仲間と共に助け合い、協力し合い、信頼し合って高め合おうとする子どもを育てることにつながります。



参考文献：「小・中学校「自主・自立」「共生・協働」を目指した教育課程編成のための資料Ⅴ 夢や希望を抱いて生きる子どもの育成を目指して」令和2年3月 川崎市教育委員会

一人一人の思いを生かして「学級目標」を設定し、理想とする姿をみんなで目指していく学級風土を、自分たちでつくっていくことができるようになるための、教師の適切な指導が大切！

学級会で「スタート集会をしよう」などの「話し合い」と「実践」を！

「学級会」は、無理ではない！むしろ大事！

「この状況でコの字にして学級会をしていいの？」と不安に思う方もいると思います。5月22日に文部科学省から出された「学校の新しい生活様式」を読むと、「可能である」と読み取れます。

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

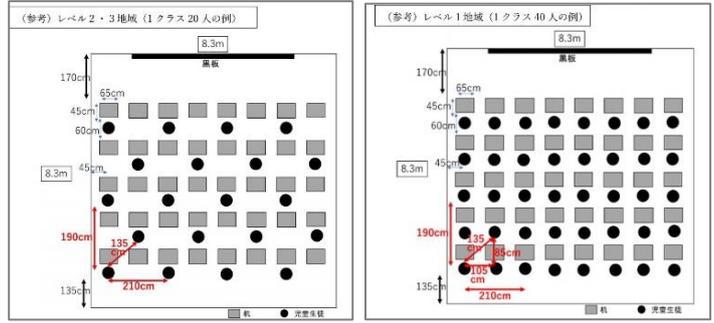
地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	部活動(自由意思の活動)
レベル3	できるだけ2m程度(最低1m)	行わない	個人や少人数でのリスクの低い活動で短時間での活動に限定
レベル2	できるだけ2m程度(最低1m)	リスクの低い活動から徐々に実施 ²	リスクの低い活動から徐々に実施 ¹ し、教師等が活動状況の確認を徹底
レベル1	1mを目安に学校内で最大限の間隔を取ること	十分な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施

「レベル3」・生活圏内の状況が、「特定(警戒)都道府県」に相当する感染状況である地域(累積患者数、感染経路が不明な感染者数の割合、直近1週間の倍加時間などで判断する。特措法第45条に基づく「徹底した行動変容の要請」で新規感染者数を劇的に抑え込む地域。)

「レベル2」・生活圏内の状況が、

- ①「感染拡大注意都道府県」に相当する感染状況である地域(特定(警戒)都道府県の指定基準等を踏まえつつ、その半分程度などの新規報告者などで判断することが考えられる。感染状況をモニタリングしながら、「新しい生活様式」を徹底するとともに、必要に応じ、知事が特措法第24条第9項に基づく協力要請を実施する地域)及び
- ②「感染観察都道府県」に相当する感染状況である地域のうち、感染経路が不明な感染者が過去に一定程度存在していたことなどにより当面の間注意を要する地域

「レベル1」・生活圏内の状況が、感染観察都道府県に相当する感染状況である地域のうち、レベル2にあたらぬもの(新規感染者が一定程度確認されるものの、感染拡大注意都道府県の基準には達していない。引き続き感染状況をモニタリングしながら、「新しい生活様式」を徹底する地域)



左の資料および上の座席配置例の資料から、学校再開後の2週間は「レベル2②」であり、本市における6月15日からは、「レベル1」に相当すると考えられます。

一方、左下の資料では、「長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」を「(★)」とし、「レベル2」の地域においては、「(★)」を付けた活動については特にリスクが高いことから、実施について慎重に検討」とあります。

学級会の「コの字」は、「長時間、近距離で対面形式」ではない活動であり、「レベル2」においても制限しているとは言えない活動であります。

「レベル1」段階においては、十分な対策(マスク着用、1m程度離れる等)といった条件を満たせば、コの字型にした「学級会」は可能であると考えられます。

なお、学級の人数によっては、椅子だけにすることも考えられます。

また、「スタート集会」の内容として、「密」を避けた内容であることが必要です。なんでもかんでも教師から「禁止」というのではなく、「どうすれば可能か(工夫)」を考えさせたいです。

第3章 具体的な活動場面ごとの感染症予防対策について

1. 各教科等について

各教科における「感染症対策を講じてもおお感染のリスクが高い学習活動」として、以下のような活動が挙げられます(「★」はこの中でも特にリスクの高いもの)。

- 各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」(★)
- 理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- 音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」(★)
- 図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- 家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」(★)
- 体育、保健体育における「児童生徒が密集する運動」(★)や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」(★)

【レベル3地域】
上記の活動は、「感染症対策を講じてもおお感染のリスクが高い」ことから、行わないようにします。

【レベル2地域】
上記の活動は、可能な限り感染症対策を行った上で、リスクの低い活動から徐々に実施することを検討します。すなわち、これらの活動における、児童生徒の「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」について、可能なものは避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなどして実施します。この場合にも、(★)を付した活動については特にリスクが高いことから、実施について慎重に検討します。



今、まさに「予測困難な時代」が到来したわけです。その中で、「持続可能な社会(学校・学級)」をどうつくっていくかを考え、話し合い、合意形成して前へ進んでいける子どもたちを育ていくことが、今こそ求められています。

「『密』にならない集会活動の在り方」を、教師の適切な指導の下、自分たちで話し合っ、合意形成し、実践していく活動こそ、今、子どもたちに必要な資質・能力ではないでしょうか！

学級活動(2)(3)の内容を積極的に実施!

「自らの学習を調整する力」の育成にもつながります!

学級活動には、学級会で話し合っ、みんなで「合意形成」を図って、みんなで実践する学級活動(1)と、話し合ったことをもとにして、自分のめあてを意思決定して、実践する学級活動(2)(3)の内容があります。学級活動(2)(3)の内容は、右の通りです。これらの内容で育てたい資質・能力は「自己指導能力」です。今、まさにその力の育成が求められているのではないのでしょうか。

学級活動(2)(3)の内容

学級活動(2) 日常生活や学校への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 基本的な生活習慣の形成
- イ よりよい人間関係の形成
- ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
- イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
- ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

学級活動(2)「コロナにまけるな!手洗いしよう」

コロナ対策に重要なのは「手洗い」です。学級活動(2)を通して、課題について話し合い、自分自身の「めあて」を意思決定して実践していくことが大切です。詳しい実践例については、今年度、各校1冊配付している「学級活動(2)実践事例集」を参考にしてください。

コロナにまけるな!手洗い 大きくせん!

アンケート結果

手洗い時間	人数
外から帰って来たとき	28
きょう校 トイレ	35
トイレ	35
よつ	25

アンケートから、きつたこと

- ・そこから 帰ってきたとき 手をあらってほしいが おかしい
- ・ごはんを 食べる ときは、そこから 帰ってきたときより手をあらっている

手あらい せしめと どうやるの?

水だけ 石けん

(手洗いの しかたの図)

① 手の平をこすり合わせる
② 手の指の背をこすり合わせる
③ 手のひらと手の背をこすり合わせる
④ 親指をこすり合わせる
⑤ 手の甲をこすり合わせる
⑥ 手の指をこすり合わせる
⑦ 手のひらをこすり合わせる
⑧ 手の指をこすり合わせる
⑨ 手のひらをこすり合わせる
⑩ 手の指をこすり合わせる

どんなことを かんぱる?

- ・外から 帰って来たとき 手を洗う。
- ・ごはんを 食べるとき 手をあらう
- ・30びょう 洗う。
- ・石けんをつかう。
- ・おやゆびもしっかりあらう。

めあてを立てよう!

なお、本来は、養護教諭と共に授業を行うことが効果的です。しかし、学校再開前後の養護教諭の多忙さを考えると、養護教諭に協力してもらって事前に映像資料を動画撮影したり、養護教諭にアドバイスをもらいながら「手の洗い方」についての映像資料等をインターネットから探したりして、授業で活用するなどの工夫を行うことも考えられます。

また、3月に学年1冊配付されている「実践事例集(特別活動)」も参考になります。

学級活動(3)「5年生になって」

新学期がスタートしてから2か月間、自宅学習という状況で、子どもたちは進級した喜びなどを感じないままにすごしてきていることと思います。もう一度、進級した喜びを思い起こし、夢と希望をもって成長していく1年間にするために、自分自身が努力する「めあて」を意思決定して、実践していくことが大切です。「キャリア在り方生き方ノート」は奇数学年においては刷新され、切り取ってそのまま「キャリア・パスポート」にも活用できるようになっています。これらを活用しつつ実践してください。詳しくは、昨年度、各校1冊配付している「学級活動(3)実践事例集」を参考にしてください。

1 5年生になって

— 学級目標と自分のめあてを決めよう —

自分や学級の目標について考えよう

1 「こんな卒業生になりたいな」ということを、できるだけ具体的に考えてみましょう。

学習	めあてをたてよう
生活	めあてをたてよう
家庭・地域	めあてをたてよう
習い事・資格・好きなことなど	めあてをたてよう

2 「こんなクラスにしたいな」ということを、できるだけ具体的に考えてみましょう。

決まった学級目標

自分ががんばっていくこと

高学年としてがんばること (授業参観・クラブ活動・学校行事・夏下校など)

将来の夢や目標

先生から 家の人から

今後の第2波等も想定すると、自分の行動目標を「意思決定」して、着実に実践する力を育てていくことが大切になります。学級活動(2)(3)の指導の充実が生活の向上につながります。